

紋別警備で会津藩士が見たであろうオホーツクの蜃気楼

北海道・東北蜃気楼研究会 星弘之

1. はじめに

蝦夷地警備はロシア帝国が17世紀から20世紀にかけて、領土の拡大を目指して南方へ進出、蝦夷(北海道)、北蝦夷(サハリン)、国後、択捉の陣屋などを襲撃、略奪や拉致が起こった。そのため江戸幕府が蝦夷地警備の必要性を強く持ち、東北諸藩に命じ警備にあたらせたことに始まる。

第二次北方警備では1859年に会津、仙台、津軽、盛岡、秋田、庄内藩に蝦夷地警備命令が下り、会津藩は標津・斜里・紋別を警備地とし、標津に本陣屋、斜里と紋別に出張陣屋を置いた。

2. 紋別に於ける会津藩の痕跡

弁天町の紋別港湾事務所脇に史跡標柱があり幕府が請負人に許可した漁場等を言う『紋別場所』があった跡、また付近に会津藩の出張陣屋があったといわれているが、現在は建物等の痕跡はない。

曹洞宗報恩寺(南が丘町)入口左には三基の会津藩士の墓がある。



図1 弁天町紋別場所標柱

3. 会津藩警備地(雄武町沢木から別海町本別海)と上位蜃気楼観測地



図2 会津藩警備地



図3 上位蜃気楼観測・撮影地

4. 会津藩警備地の状況

標津、斜里、紋別とも陣屋は現存していないが文献の記載や現地に形跡が残っているところもある。監視所は広範囲に敵が良く見える小高い所に設けるのが定石で、守るにも最適な場所を選ぶであろう。会津藩の警備地の最北である「沢木」は日の出岬と言われ海に突き出ている高く見渡せる高台にあり監視には最適の場所のように思える。



図4 雄武町沢木(日の出岬)

5. 警備地での上位蜃気楼発生状況

- (1)斜里：年間を通して蜃気楼の発生が確認されていて多彩で多様な蜃気楼が見られる、特に「幻水」が有名で流氷が見られる北半球最南の網走湾を中心に発生する世界的にも非常に珍しいもの。
- (2)標津：根室海峡に面しており、蜃気楼の発生情報も多く、四角い太陽を撮影できる場所として全国的に有名で多くのカメラマンを集める。
- (3)紋別：オホーツク海に面していて蜃気楼情報も多く、冬期間は流氷があり蜃気楼や幻水を見ることが出来て年間30回程の上位蜃気楼の発生が確認されている。

以上の状況から蝦夷地警備中に会津藩士が上位蜃気楼に出会ったのではないかと強く思うようになった。

6.過去に紋別や周辺地域から見た上位蟹気楼



2019.05.06 蟹の爪前から 130km 以上離れた海別岳



2019.05.06 興部町沙留の北部より雄武町方向の建物などが上位蟹気楼化

7. 会津藩士は上位蟹気楼を見たか？

標津町、斜里町、紋別市の図書館などで文献などを調査したが上位蟹気楼等の記述は確認されなかった。

警備地の監視所で監視をしている者は日中、常に海上を見ているので風景の変化に気づきやすい。

近年多くの観測事例がある中、警備で常時監視していたのなら相当の頻度で見つかっていたはずである。

懸念されることは蟹気楼に対する知見がない監視人が「変なものを見た」と報告後、別人が確認したところ何もなかった場合、監視人の資質が問われかねないので単なる風景の変化では報告も記録もされなかったかもしれない。

8.おわりに

陸上自衛隊の標津分屯地の沿岸監視所は標津、野付半島、羅臼の三カ所にあり上位蟹気楼が頻繁に発生する国後島や根室海峡を監視している。標津と野付半島の監視所で聞き込みをすると回答は出来ないとのこと。会話の中ではそれらしきものは見ていると感じ取れた。会津藩士が上位蟹気楼を実際に目にしたかどうかは史料等からは確認できなかった。しかし、近年の発生頻度や当時の監視所の地理的条件を考えると、彼らがそれを見たとしても不思議ではない。これは史実ではなく私の想像にすぎないが、根拠のある『ロマン』として心に留めておきたい。

御礼



北海道各地には、今も多くの会津藩士の墓が残されており、いずれも丁重に守られているのを目にします。紋別においても、報恩寺に三基の墓があり、御住職や地元の皆さま、自治体のご尽力によって大切に管理されております。遠く会津の者として、このように永きにわたり弔いを続けていただいていることに、厚く御礼申し上げます。

参考文献等

- ・榎本 守恵 『北海道の歴史』北海道新聞社
- ・中村 恵子 『江戸幕府の北方防衛』株式会社ハート出版
- ・平出美穂子 『知られざる幕末会津藩』歴史春秋社
- ・北海道標津町郷土史研究会 『東蝦夷地シベツと会津藩』
- ・別海町加賀屋文書館 蝦夷地警営図